



つながろう

CO・OP アクション情報

2011年9月14日

第2号

◆リレー寄稿① ～震災半年を過ぎて



いわて生協
専務理事 菊地 靖氏

この間の全国の生協の皆さんの支援に感謝いたします。

震災発生から早くも半年が経過しました。いわて生協では、震災直後の物資・食事支援から、その後のボランティア活動の組織など、可能な限り被災者ニーズに沿った支援を心掛けてきました。

岩手県では、8月で全ての避難所が閉鎖され、被災者たちは新たな環境での生活に踏み出しています。

しかし、がれきが片付き始めたとは言え、漁業や工場の復旧は遠い道のりで、仕事を失った被災者の不安は深刻です。仮設住宅入居者だけではなく、支援が届かないアパートへの避難者も含めて心のケアが必要になっています。

地場産業の復興、被災者の心のケアと自立支援に、生協の事業、組合員組織の持つ力を役立てていきます。

台風12号に伴う甚大な災害で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。生協は全力を挙げて支援に取り組みます。(関連情報4面にて掲載)

地元商品の利用で岩手の復興を！

～いわて生協「復興支援・地産地消フェスタ」を開催～



沿岸部と内陸部の企業・団体が共に協力し合い、岩手の地域復興を目指していく。

震災発生から半年となる9月10日(土)、11日(日)の2日間、いわて生協の店舗・コープAterui(奥州市)が入るショッピングセンター「カルチャーパークあてるい」で、第4回「復興支援・地産地消フェスタ」が開催されました。

会場となった駐車場に並んだのは、いわて生協と地元・奥州市の23社、そして沿岸部の30社など、合計60のテントです。被災地からは旬の野菜や魚介類、加工品が届けられ、その場で焼いたり、弁当として提供されるものも多く、親子連れやお年寄りなど参加者たちの舌を楽しませました。特設ステージでは、地元の団体による太鼓演奏や鬼剣舞に加え、津波の被害を受けた沿岸部から、釜石虎舞(釜石市)や氷上太鼓(陸前高田市)などの参加もありました。初日午後、特設ステージで行なわれたのが「復興支援チャリティオークション」。司会を務めた、いわて生協「マリンコープDORA」(沿岸部の宮古市)の菅原則夫店長は、絶妙なトークで会場を沸かせ、沿岸部と内陸部をつなぐ役割を果たしました。これらイベントには、2日間で約2.2万人が訪れました。



「かけあしの会」でCDを販売する香木みき子さん。

音楽CD「明日への虹…」発売

全国大会で優勝し、若手民謡歌手として期待される宮古市の小田代直子さん。自身、家を流されるなど被害に遭いましたが、避難所を回って被災者を元気付けてきました。小田代さんが歌う「明日への虹…」の発売元「復興プロジェクトかけあしの会」の代表を務めるのが菅原則夫店長。理事の香木みき子さんと共に作詞にも関わりました。